

## 第1問

### ■問題のねらい

第1問の主な出題範囲は、高等学校学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(2) 地球的課題と国際協力」である。

中間を通じ、世界の人口問題とそれに関連する課題を主題とした学習において、資料を基に話し合うなどの生徒の追究や解決の過程を設問として展開している。追究や解決の過程においては、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、グラフや表、主題図などの各種資料から、地理的な見方・考え方を働かせながら、地球的課題について多面的・多角的に考察したり、課題解決を目指した取組について考察したりする力を求めている。具体的には、地球的課題のうち、世界の人口問題に関して、現状や将来について地球的視野から大観するとともに、地域性や、課題相互の関連性を踏まえて考察する力や、問題の所在や解決の方向性を明確にし、持続可能な社会の実現を目指した活動やその要因について考察する力を問うている。

### ■問題の概要

	問題の概要	(参考) 高等学校学習指導要領
問1	1950年から2100年までの人口の推移を地域性を踏まえて考察する設問である。発展途上国では急激な人口増加が各地域共通の課題であるが、その程度や人口転換の時期には地域的な差異が見られ、その理解を基に考察する力を問うている。	B 国際理解と国際協力 (2) 地球的課題と国際協力 ア(ア)(イ)、イ(ア)
問2	人口上位8か国を取り上げ、人口推移の要因について多面的・多角的に考察する設問である。ジェンダーの観点から人口に関連する統計を読み取り、関連する知識と結び付けながら人口推移と統計との関連性や傾向性を考察する力を問うている。	
問3	5歳未満児の死亡率を下げるための解決策と、地球的課題の現状を表す主題図から大観して捉えたことを組み合わせ考察する設問である。持続可能な社会の実現を目指した取組とその背景となっている地球的課題との相互関連性について考察する力を問うている。	

## 第2問

### ■問題のねらい

第2問の主な出題範囲は、高等学校学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(1) 自然環境と防災」である。

中間を通じ、防災学習における自然災害に対する備えと復興の在り方を主題とした学習において、資料を基に話し合うなどの生徒の追究や解決の過程を設問として展開している。追究や解決の過程においては、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して、グラフや主題図などの各種資料から、地理的な見方・考え方を働かせながら、自然及び社会的条件との関わりと地域性を踏まえた防災の在り方を多面的・多角的に考察する力や、そのために必要な読図などの技能を求めている。具体的には、自然災害の危険性が自然環境と人間活動との関わりによって変容することに対する理解や、地域性を踏まえた自然災害への備えなどの適切な在り方を考察する力、及び自然災害に備えた持続可能な地域づくりに着目して考察する力を問うている。

### ■問題の概要

	問題の概要	(参考) 高等学校学習指導要領
問1	死者・行方不明者数と一般資産被害額の経年変化の図を読み取り、自然災害の規模や頻度、自然災害への備えや対応がどのように変化してきたのかを、人間活動と自然環境との関わりを踏まえて考察する設問である。地理的事象が変化した要因を、人間や社会と自然環境との関係から多面的・多角的に考察する力を問うている。	C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 ア(ア)(イ)、イ(ア)
問2	自然災害の特徴や地域の自然環境の特色と、人間活動との関わりを踏まえ、自然災害時においてどのような避難行動を選択・判断するかの根拠について考察する設問である。水害という地理的事象について、状況に応じた災害の危険性を正しく判断した上で、人間や社会と自然環境との関係を多面的・多角的に捉え、地域性を踏まえた自然災害への備えや対応を考察する力を問うている。	

問 3	<p>津波に関する図を読み取り、津波に対する備えとしての高台移転について考察する設問である。ハザードマップにも通じる過去の津波被害に関する図を正確に読み取る技能に加えて、自然災害が襲来する地域の人間活動と自然環境の関わりを捉え、地域性を踏まえた防災や将来の自然災害に備えた持続的な地域づくりなどを考察する力を問うている。</p>	
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

### 第3問

#### ■問題のねらい

第3問の主な出題範囲は、高等学校学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(2) 生活圏の調査と地域の展望」と、「地理探究」の「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」における「(1) 持続可能な国土像の探究」である。新しい学習指導要領では、「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目として「地理探究」が設置されていることを踏まえ、「地理総合」の生活圏の調査と地域の展望の学習を踏まえた設問（問2～問4）と、「地理探究」の持続可能な国土像の探究の学習を踏まえた設問（問1及び問5、問6）とを組み合わせ構成している。

大問を通じ、地域の変容を主題とする生徒のグループ活動における、地域調査をはじめとした探究の過程を設問として展開している。探究の過程においては、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域調査によって得られた主題図やグラフ、写真などの各種資料から、地理的な見方・考え方を働かせながら、生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察する力や、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などの理解、また、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想する力を求めている。具体的には、都道府県別の市町村合併率や人口増加率の主題図を切り口として、大規模な市町村合併が進行した新潟県上越市を題材に、地域の概要を大観した上で、上越市の社会的条件の変化から都市の空洞化問題などの地域の課題を考察する力を問い、市町村合併における中山間地域の過疎化によって起こる課題の解決策を構想することを通じて、市町村合併の成果と課題を整理し、日本の国土像の在り方を構想する力を問うている。

#### ■問題の概要

	問題の概要	(参考) 高等学校学習指導要領
問1	都道府県別の市町村合併率と人口増加率の二つの主題図を読み取り、重ね合わせることで、日本全体の規則性や傾向性について考察する設問である。複数の資料から地理情報を読み取ったり、まとめたりする技能について問うている。	【地理探究】 C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1) 持続可能な国土像の探究 ア(ア), イ(ア)

問 2	上越市の概要を大観するために、地理院地図に示された情報を正確に読み取り、地域の特徴を考察する設問である。地理情報に関する理解や、地図を読み取る技能についての力を問うている。	<p>【地理総合】</p> <p>C 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>(2) 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>ア(ア), イ(ア)</p>
問 3	地理院地図に示された三つの地区から読み取った情報を基に、人口に関する二つの資料と景観写真といった複数の資料から各地域の現状や変化の特徴について考察する設問である。複数の資料から読み取った情報から、地域的特色を多面的・多角的に考察する力を問うている。	
問 4	生活圏の地理的な課題である都市の空洞化や買い物弱者の問題に関連して、聞き取りメモの情報を基にスーパーマーケット店舗の立地の変遷について考察する設問である。地図に示された地域の人口や産業、交通などの地域構造の変化と店舗の立地の変遷について考察する力を問うている。	
問 5	人口の減少・高齢化が進む中山間地域を対象に、日本全国の同様な地域で起こっている各種施設へのアクセスに関する課題の解決策について構想する設問である。課題を把握し探究する手法の理解と、地域が抱える地理的な諸課題の解決の方向性について構想する力を問うている。	
問 6	平成の大合併における成果と課題について考察し、その具体的事例を選択する設問である。日本の国土像について、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土像の在り方などを、多面的・多角的に探究する力を問うている。	<p>【地理探究】</p> <p>C 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p> <p>(1) 持続可能な国土像の探究</p> <p>ア(ア), イ(ア)</p>